

九州西方海域産小型歯鯨類の研究—X.

長崎県五島周辺海域で捕獲されたハシナガイルカについて*

水江一弘・吉田主基・園田成三郎

Studies on the Little Toothed Whales in
the West Sea Area of Kyusyu—X.About *Prodelphinus* sp. so-called "HASHINAGA IRUKA" in Japan
caught in the Sea Area around Gotō Is. Nagasaki Pref.

Kazuhiro MIZUE, Kazumoto YOSHIDA** and Seizaburo SONODA

1. As a result of the investigations of the four little toothed whales which had been caught in the area around Gotō Is., and landed at Nagasaki fish-market in September 1963, they were found to be the same as one sample of head which OZAWA had received from Nagasaki in 1936 and named them "HASHINAGA IRUKA".

2. These samples of ours belong to the genus *Prodelphinus*.

3. The body colors of our samples are shown in Fig. 2 and Plate I, namely they are black on back, white on ventral and gray on side face and there is no spot on the surface of the body entirely. The characteristic color is shown at the forehead part and around the anus (Fig. 2 & Plate I, 5, 6 and 7).

4. The values of the external proportions are shown in Table 1, one of the greatest characteristic features of body is the longer snout than those of the other *Prodelphinus* spp. except *P. longirostris*., and their three fins are larger than those of "MADARA IRUKA" (*Prodelphinus* sp. in former report).

5. The values of skull measurement are shown in Table 2. The long snout of the skull of these specimens is characteristic. The skulls of our specimens resemble to those of *Prodelphinus longirostris* from the viewpoint of the existence of the tuber on os incisivum at the triangular area in front of nares and the very small and round temporal fossae, but our snout is shorter and wider than those of *Prodelphinus longirostris*, and our skull itself is wider than other skulls.

6. The number of vertebra is shown in Table 3, is 71~72; mean value is 71.2.

7. The number of teeth is shown in Table 4; namely, 50~52/49~50.

8. The form of scapula and sternum is interesting to see. The number of os castale, two-headed os castale and cartilago, and their connection are shown in Fig. 5.

* 本研究は文部省科学試験研究費によつて行なつた。又その概要は、1964年4月日本水産学会年会（東京水大）で報告した。

** 長崎大学医学部（Nagasaki University School of Medicine）

9. OGAWA had reported one head of this specimen as *Prodelphinus longirostris*, but from the point of view of the body color, the values of skull measurement and the number of vertebra, it seems that our specimen is the other species from *P. longirostris* which had reported by TRUE, namely it is a new species which has not been described.

緒 言

長崎県沿岸、主として五島周辺に於て、秋になると大分県・愛媛県等から遙々漁船がやって来てカジキの突きん棒漁業が行なわれる。これ等の突きん棒船は、勿論主対象をカジキに置いているが時々当海域に豊富な小型歯鯨類を突く事がある。そして捕獲した此等の小型歯鯨類は五島の港の魚市場に主に水揚げされていた。何故なれば、長崎や佐世保の魚市場では大きいものでせいぜい300円位がせきの山であり、下手をすると引き取り手が無い状態であるのに反して、五島では食用として小型歯鯨類が喜ばれる為に、彼の地の魚市場では相当高価に取り引きされているからである。この様な事情であるから、小型歯鯨を捕獲した場所が長崎のすぐ近くであったり、又捕獲した漁船がどうしても五島に行かれず

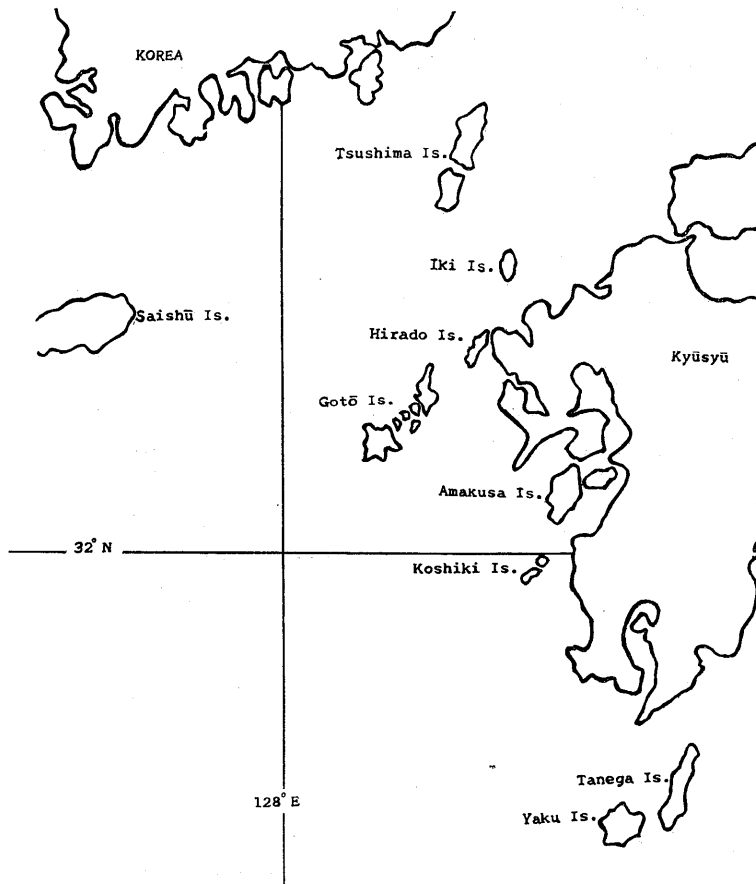


Fig. 1. West sea area of Kyūshū.

長崎から佐世保に直行しなければならないと云う様な余程の事がない限り、長崎や佐世保の魚市場には漁夫達は小型歯鯨類を水揚げしない。ちなみに五島周辺の海域で小型歯鯨類が捕獲されるのは五島に於ける追込みを除いては、前記突き棒漁業以外では、旋網漁業がある。そしてたまたま間ぬけた小型歯鯨が網にまかれて捕獲される事がある様だ。又県下橘湾（島原半島と長崎半島間の海面）では漁期（秋期）になると小型の流し網にスナメリがかかる事があり、このスナメリは長崎魚市場に持ち込まれている様である。

我々は長崎魚市株式会社の岩田了氏の御協力を得て前記突き棒船の内の一隻に頼んで突いた小型歯鯨を長崎魚市場に水揚げして呉れる様に依頼した。しかし非常に沢山の小型歯鯨を揚げて呉れたが、その大部分は前に報告したマダライルカであった。兎がその内此等のマダライルカにまじってハシナギイルカが揚げて来た。早速これを4頭（1963年9月7日2頭、9日1頭、10日1頭）購入して測定解剖したので、その結果と小川³⁾及びTRUE¹⁾の論文と比較検討して報告する。

標本採取に御協力下された長崎魚市株式会社の岩田了氏に心から謝意を表する。

使用した和名及び学名について

“ハシナギイルカ”と云う和名は永沢六郎がかって提唱し、小川鼎三がそれを最適とされて使用された。筆者も偉大なる此等先輩が使用されたこの和名を使用する光栄に浴したい。小川によればハシナギイルカが日本近海に棲息していると云う事は岸田久吉・永沢六郎等が以前から云っていた事であり、事実1955年2月長崎大学水産学部練習船長崎丸（船長柴田恵司氏）が天草灘に於て1頭捕獲しているし、又1963年7月15日に長崎県の野母の漁船が五島灘で1頭銛で突いて捕獲しているのを筆者は観察した。又1935年の夏に長崎医科大学の国友教授が五島灘に出漁した漁船より1頭入手して頭部のみ塩漬けにしたものを、小川が譲り受けてそれを報告している。現在まで確実なハシナギイルカについて報告しているのは小川のこの報告のみである。又TRUEは8種類の *Prodelphinus spp.* 及び *P. longirostris* について詳細な記載をしている。そして小川は又本邦近海産の頭部のみの一頭（前記）の測定値を以て、その学名を大胆にも *Prodelphinus longirostris* としている。しかし我々が此処で取り扱ったハシナギイルカが小川がのべている如く、TRUEが記載した *Prodelphinus longirostris* と同じかどうかは大いに疑問とする所であり、この点については考察の項で詳述する。しかし我々の頭骨を見ると *crowns of teeth* が *rough* でなくて、下顎骨の縫際長が短い (*Steno sp.* ではない)、又 *palate* に溝の存在が見られない (*Delphinus sp.* ではない) ので、属名が *Prodelphinus* である事には間違いのないから、一応種名は附さないで *Prodelphinus sp.* とし報告しておく。

観 察 測 定

体 色

小川はかつて長崎にて水揚げされたハシナギイルカの頭部（塩漬けしたもの）の体色について記載している。我々の標本と小川の此の記載は良く一致している。本種は一般に背面は黒色、腹面は白色、側面は灰色であり、背面にも腹面にも側面にも斑点は何れの個体

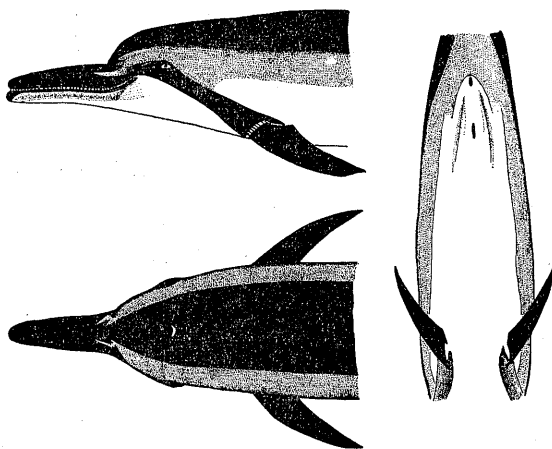


Fig. 2. Patterns at the head part, lateral side and dorsal side and ventral part.

に於ても全く存在していなかった。

背面の黒色であるが背鰭を含んで巾広い黒帯が正中線上を走って居り、噴気孔附近より次第にその巾がせまくなって吻基部 (groove) を通り越して、眼の周囲の黒帯が前方に延びて来たものと吻中部で交わっている (Fig. 2, 模式図参照)。又背面よりの黒帯は吻基部附近に於ては特徴ある複雑な縞模様を形成している (Fig. 2, 模式図及び Plate I, 6. 7 参照)。背面の黒色帯は体後部に於て、やゝ細くなりつゝ尾鰭の黒色と合している。次に胸鰭基部前端より主に目の下部を通して、約 3—5cm 巾の黒色帯が口角上部に延びて居り、眼の周囲の黒環もこの黒帯の上部を形成している。又更にこの黒帯は口角附近上吻の唇辺を通して吻前部の黒帯に連絡している。口角の唇辺は両顎共に黒色である。

次に側面は灰色であり、腹面の白色と背面の黒色帯と明瞭に区別されている。この側面の灰色が胸鰭部分より前述の胸鰭端より発する黒帯と背面黒色帯にはさまれて、次第にせまくなりつゝ模式図に示した如く眼の上部を通して複雑な特徴ある模様を形成しながら、上吻部で正中線に両側から細くなりつゝ集っている。側面の灰色部は体後部に於ては巾が広くなり、その下縁は肛門直後で左右が合して居り、その上縁は背部黒色との境が不明瞭になりつゝ尾柄下部に達している。

腹面白色は肛門直後より始まって肛門、生殖孔を含み胸鰭附近では胸鰭基部の黒色部分によってせばめられて、前記胸鰭基部より発する黒帯と明瞭な境を形成しつゝ下吻下面に及んでいる。又腹部白色帯の末端附近には白色帯縁辺と平行に灰色の線が左右に存在している (Fig. 2 模式図, Plate I, 5 参照)。下吻下面では吻端は黒色であるが、前記下顎唇辺の巾のせまい黒色部分とは別に、それと平行して 3—4cm 巾の灰色帯が吻端の黒色部分より発して、正中線上の巾のせまい白色部分をはさんで、やゝ拡がりつゝ後方に走って口角下辺で消失している。

鰭について

Plate に示す如く背鰭・胸鰭・尾鰭はごく普通の大きさ及び形態をなして居り、前報

マダライルカと比較して殆んど差が認められない。それ等の鱗の色は何れも黒色であつて、斑点や縞模様は全く存在していなかった。

外形プロポーシヨン

本種の属する *Prodelphinus spp.* のものは一般に *Delphinus spp.*, *Steno spp.* 又は *Lagenorhynchus spp.* のものに比べて吻が長く体はスマートである。本種は又

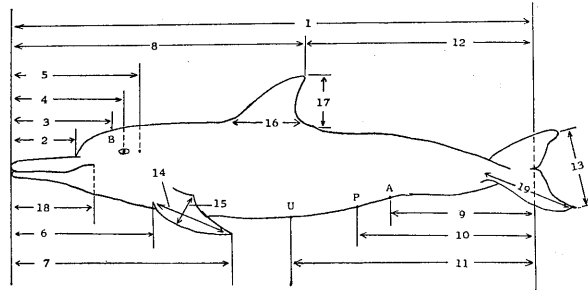


Fig. 3. Proportions of external measurement.

A...Anus, B...Blowhole, U...Umbilicus, P...Pudendalis.

- 1) 体長 (上顎吻端より尾鰭分岐点までの直線距離)
- 2) 吻長
- 3) 上顎吻端より噴気孔中央まで
- 4) 上顎吻端より目の中央まで
- 5) 上顎吻端より耳孔まで
- 6) 上顎吻端より胸鰭底前
- 7) 上顎吻端より胸鰭突起端まで
- 8) 上顎吻端より背鰭突起端まで
- 9) 尾鰭分岐点より肛門まで
- 10) 尾鰭分岐点より生殖孔の中心まで
- 11) 尾鰭分岐点より臍まで
- 12) 尾鰭分岐点より背鰭突起端まで
- 13) 尾鰭幅 (両突起端間の長さ)
- 14) 胸鰭の長さ
- 15) 胸鰭最大幅
- 16) 背鰭基底部の長さ
- 17) 背鰭の高さ
- 18) 上顎吻端より口角まで
- 19) 尾鰭最大長 (尾鰭基部より同側尾鰭突起端まで)

Table 1. Body length (1) and percentages of external proportions to body length (2-19).

Proportion No. (Sex)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
3 (♂)	158.0*	14.5	28.5	28.3	32.5	39.5	64.5	89.0	45.5	58.2	79.8	69.0	36.5	25.5	7.7	26.5	15.0	24.5	24.5
	%	9.2	18.0	17.9	20.6	25.0	40.8	56.3	28.8	36.8	50.5	43.7	23.1	16.1	4.9	16.8	9.5	15.5	15.5
1 (♂)	160.5	14.5	30.0	29.5	24.0	42.0	67.5	92.5	43.0	56.0	79.0	68.0	36.5	25.0	8.0	26.0	15.5	24.5	25.5
	%	9.0	18.7	18.4	21.2	26.2	42.1	57.6	26.8	34.9	49.2	42.4	22.7	15.6	5.0	16.2	9.7	15.3	15.9
4 (♂)	204.0	15.5	33.0	30.5	35.0	45.0	74.0	—	58.5	75.5	108.5	—	45.0	29.5	10.0	—	—	28.6	26.5
	%	7.6	16.2	15.0	17.2	22.1	36.3	—	28.7	36.0	53.2	—	22.1	14.5	4.9	—	—	14.0	13.0
(♂) Total Mean	%	8.6	17.6	17.4	19.6	24.4	39.7	57.0	28.1	36.3	51.0	43.0	22.6	15.4	4.9	16.5	9.6	15.0	14.8
2 (♀)	176.0	15.5	31.0	30.0	34.5	45.0	70.5	100.5	49.5	56.5	89.0	75.5	35.0	26.0	9.0	28.0	15.0	26.5	25.0
	%	8.8	17.6	17.1	19.6	26.6	40.1	57.1	28.1	32.1	50.6	42.9	19.9	14.8	5.1	15.9	8.5	15.1	14.2

* Data expressed as cm,

Prodelphinus spp. の中でも TRUE の記載している *Prodelphinus longirostris* と共に特に吻が長い様である。外形各部の測定部位は Fig. 3 に示した。又その測定値及びその体長に対する%は Table 1 に示した。

頭骨計測

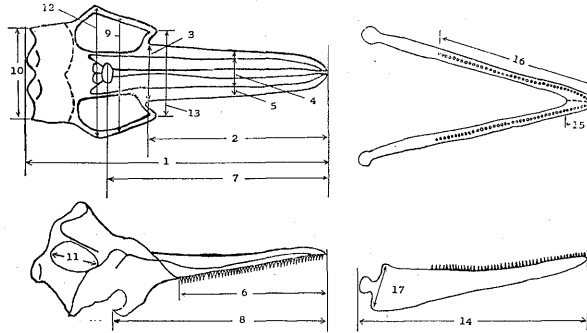


Fig. 4. Proportions of skull measurement.

- 1) 頭骨全長
- 2) 吻長
- 3) 吻基底幅
- 4) 吻中部における切歯骨幅
- 5) 吻中部幅
- 6) 上顎歯線長(左右平均)
- 7) 吻端より噴気孔中央まで
- 8) 吻端より翼状骨口蓋部後端まで
- 9) 左右眼窩距離
- 10) 左右側頭窩後縁距離
- 11) 側頭窩最大長(左右平均)
- 12) 頭骨最大幅
- 13) 左右前頭骨突起間距離
- 14) 下顎骨長
- 15) 縫際長
- 16) 下顎歯線長(左右平均)
- 17) 下顎角と鳥喙突起先端との距離

Table 2. Percentages of skull proportion to body length (1), to total length of skull (2-14), and to total length of mandible (15-17).

Proportion	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
3 (♂)	37.8	23.7	7.3	2.2	4.8	20.5	28.6	28.2	14.8	12.9	5.7	15.7	8.8	32.5	4.4	20.0	5.5
B. L. 158.0cm	23.9	62.7	19.3	5.2	12.7	54.2	75.7	74.6	39.5	34.2	15.1	41.5	23.3	85.0	13.5	61.5	16.9
1 (♂)	38.3	23.8	7.0	2.5	4.6	20.5	28.8	28.5	14.5	12.9	5.0	15.9	8.6	32.4	4.1	19.9	5.3
B. L. 160.5cm	23.9	62.1	18.3	6.5	12.0	53.5	75.2	74.4	37.9	33.7	13.0	41.5	22.5	84.3	12.7	61.4	16.4
4 (♂)	41.8	26.2	8.4	2.2	5.4	21.9	30.5	31.2	15.3	13.5	6.1	16.9	10.0	37.1	5.0	21.9	6.3
B. L. 204.0cm	20.5	62.7	20.1	5.3	11.0	52.4	73.0	74.6	36.6	32.3	14.6	40.4	23.9	88.8	13.5	59.0	17.0
(♂) T.M.(%)	22.8	62.5	19.2	5.7	11.9	53.4	74.6	74.6	37.9	33.8	14.2	41.1	23.3	86.4	13.2	60.7	16.8
2 (♀)	39.8	25.0	7.8	2.6	4.8	21.7	30.1	30.0	15.2	12.6	4.9	16.5	9.4	34.4	4.4	21.1	5.7
B. L. 176.0cm	20.6	62.8	19.6	6.5	12.1	54.5	75.6	75.4	38.2	31.7	12.3	41.5	23.6	86.4	12.8	61.3	16.6
OGAWA's value	41.9	26.6	7.8	2.2	4.8	23.2	30.7	31.9	14.7	13.2	5.4	—	—	36.2	5.5	23.4	6.0
	—	63.5	18.6	5.3	11.5	55.4	73.3	76.1	35.1	31.5	12.9	—	—	86.4	15.2	64.6	16.6
TRUE's value	42.0	28.0	7.5	—	4.6	—	—	—	14.0	—	5.0	—	—	—	—	—	—
	—	66.7	17.9	—	11.0	—	—	—	33.3	—	11.9	—	—	—	—	—	—

本種の頭骨は *Prodelphinus spp.* の中の他のものに比して一般に吻が甚しく長いのが特徴である。計測頭数は♂3頭、♀1頭計4頭である。その計測値を TRUE 及び小川の計測値と比較検討出来る様に Table 2 示した。全長に対する頭骨全長の%及び頭骨各部の頭骨全長に対する%を夫々示してある。又 TRUE は *Prodelphinus longirostris* の頭骨の噴気孔よりやや前方の切歯骨上に存在している表面に皺のよった骨のかたまりについて triangular area として記載しているが、筆者等の頭蓋骨にも TRUE の述べている部位に顕著に発達した結節を認めた。又本種では側頭骨窩が非常に小さくて丸く、口蓋に横溝の跡が存在して居り、口蓋面から vomer は正中線上に上顎骨の間に見える。此等の事実も TRUE の *Prodelphinus longirostris* と同じである。

脊椎骨数

脊椎骨数は分類学上重要な測定値である。Table 3 に4個体の脊椎骨数を示した。それによると脊椎骨総数71は3個体、72が1個体であった。又此等の何れの個体に於ても第一頸椎と第二頸椎とが癒着していた。

Table 3. Number of vertebrae.

No. (Sex)	1 (♂)	2 (♀)	3 (♂)	4 (♂)
Number of vertebrae	71	71	72	71

歯数

本種は前記した如く吻が他のものに比して長く、その割で歯数も他に比して多い様である。歯数は歯槽の数で示した。即ち Table 4 がそれである。歯数は50~52/49~50であり、上顎歯槽数の方が下顎歯槽数よりもやや多い。

Table 4. Number of alveolus.

No. (Sex)	1 (♂)	2 (♀)	3 (♂)	4 (♂)	OGAWA's value	TRUE's value
Upper {	Right	51	51	52	50	60
	Left	50	52	52	50	59
Lower {	Right	49	49	49	50	60
	Left	49	50	49	50	61
						$\frac{52}{52}$

胸骨、肋軟骨およびその結合と肋骨、二頭性肋骨

先ず肋骨数及び遊離肋骨数であるが、肋骨が左右各々14個存在しているものは2個体、左右各々15個存在しているものが2個体あった。前者は第14番目の肋骨が脊椎骨横突起より遊離している所謂遊離肋骨である。又後者に於ては14番目と15番目の肋骨が遊離肋骨であり、しかも15番目のものは非常に小さく脊椎骨横突起より遙かに遊離していた。

二頭性肋骨数は Table 5 に示してある如く左右各々5本のものが3個体、6本のもの

Table 5. Respective number in right (R) and left (L) of os costale, cartilago, cartilago costalis and two-headed os costale.

No. (Sex)		1 (♂)	2 (♀)	3 (♂)	4 (♂)
Os costale	R	14	14	15	15
	L	14	14	15	15
Cartilago	R	9	9	9	9
	L	9	9	9	9
Cartilago costalis connected to sternum	R	5	5	5	5
	L	5	5	5	5
Free ribs	R	1	1	2	2
	L	1	1	2	2
Two-headed os costale	R	5	5	5	6
	L	5	5	5	6

が1個体であった。6本の1個体は老年のものであるがこれは老若に関係なく個体変異と思われる。

次に肋軟骨数であるが、左右各々9~10本の値を得た。即ち左右各々9本の肋軟骨を持つ個体は3個体、10本のは1個体であった。前者に於ては9番目の肋軟骨は化骨せず他と比較した場合非常に小さい。後者では9番目の肋軟骨は化骨していないが、それ程小さくなく、10番目のものは勿論化骨していないで非常に小さい。

次に胸骨及びそれと肋軟骨との結合であるが、両者の結合が軟骨によってなされている事は前報に於て既に報告した。4個体とも1番目~5番目の肋軟骨が胸骨と結合して居り他は何れも胸骨とは結合していない。両者の結合状態は Fig. 5 の模式図に明らかである。

なお胸骨の形状も Fig. 5 の模式図を見れば明らかであるが、この図は標本 No. 4 のもので老年のものであり胸骨柄・胸骨体・剣状突起の三つの骨が化骨してしまつて一つになっているが、他の標本のものでは胸骨を形成している此等の三つの骨が夫々軟骨で結合されているにすぎず、ばらば

らにはなれている。しかも若い標本では胸骨の形状は、化骨している老成したものに比べて相当変つて居る。特に胸骨柄ではその傾向が強い。この様に幼老で骨の形状に相当の差が認められるのは胸骨に限った事ではなく、体の各部分で見られる。この外に個体変異も亦相当認められる。1頭の標本のみを詳細に測定観察して他と比較し又は同定する事は意

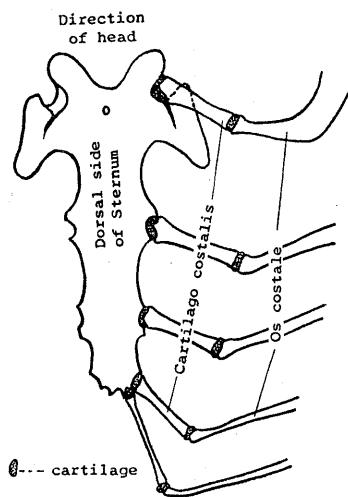


Fig. 5. Sternum, os costale and cartilago costalis.

義のある事ではあるが分類学上相当の危険を伴うと思われる。数量的に取扱う必要を強く認めるものである。

考 察

本邦産のハシナギイルカは前記した如く *Prodelphinus* sp. である事に間違いないと思われるが、他の本邦産 *Prodelphinus* 属に属しているスジイルカやマダライルカに比べて、それ程普通のものではない様であり、捕獲された海域や、又は五島に於ける追込みではどうもとれていない様である事等から考えて、あまり接岸する種類とは考えられない。むしろ沖合に棲息しているものゝ様である。

又小川が報告しているハシナギイルカと我々の標本とを頭部のみ比較して見ると、頭部に於ける色彩が良く一致しているし、頭部のみ外形部位各々の測定値の比に差が殆んど見られないし、又 Table 2 に示す如く頭骨の各々の測定値の比に於ても差は認められない。更に捕獲した海域が全く同一である。此等の事から両者は同一種であるとして間違いはない。故に筆者等の標本に小川等が附しているハシナギイルカと云う和名を使用するのに何の躊躇も感じない。

TRUE は *Prodelphinus* 属に属するものを 8 種報告している。この 8 種の中に *Prodelphinus longirostris* がある。*P. longirostris* 以外の他の 7 種は吻の長さや歯の数や体の縞模様斑点等では問題にはならない。即ち本種とは似ても似つかないと思われる。TRUE の記載している *P. longirostris* は吻が長く歯が多い事や頭骨の測定値が似ている事等によって一応筆者等のハシナギイルカと比較する価値を認める。事実小川は頭部のみの一標本を以てそれを *Prodelphinus longirostris* とした程頭骨のみでは両者は似ている様である。しかし TRUE の記載している *P. longirostris* はその体色に著しい特色を持っている様である。即ちそれは背面は暗灰色であるがその中に淡灰色の大変小さな不規則な斑点を持って居り、しかもその斑点は背鰭にも多く及んでいる。又腹部は白色であるがその中に暗灰色の不規則な多少星形をした斑点を持っているとのべている。云うなれば TRUE の *P. longirostris* は体中斑点だらけであると云う事だ。処が筆者等のハシナギイルカには Plate に明示している如く斑点らしいものは何れの個体にも全く存在していなかった。一見したゞけで両者の区別がつくと確信する。

次に外形であるが TRUE の示した 8 種の *Prodelphinus* spp. のものには外形プロポーションの測定値はないし、小川のハシナギイルカも同じであるから比較のしようがないので、本種とこれも新しい種類と思われる九州西方海域産のマダライルカと比較する。Table 1 に於て測定値(2)~(7)は何れもハシナギイルカの方がマダライルカより値が大である。特に(2)の値、即ち吻長が甚だしく長いのが目につく。此等は何れも吻端からの測定値であるが此等の値が他より大である事は本種の吻が長いのが原因している。その他ではマダライルカより本種の方が立羽が長く又背鰭尾鰭が大きい。これは本種が沿岸性でないと思ふ。これ以外では両者の外形プロポーションの測定値には、それ程の差は認められず外形はむしろ似ていると云える。

頭骨は前記した如く TRUE の *P. longirostris* にある鼻孔前方の triangular area の形状が本種と良く似ているし、又側頭骨窩が他と比べて非常に小さい等他に TRUE が

指摘した点も良く似ている。しかし頭骨各部の測定値 (Table 2) を仔細に検討して見ると大分差違が見られる。即ち最も大きな相違点は *P. longirostris* の方が明らかに吻は細くて長い。特にその長さは頭骨全長の $\frac{3}{4}$ であるが本種ではそれ程長くないし、又吻基底幅及び吻中部幅とも本種の方が細くない。又頭骨自体も *P. longirostris* は本種よりも幅がせまい。*Prodelphinus spp.* の脊椎骨数は70~80であるが本種は此の中でも脊椎骨数は少ない部類に属する。即ち本種は71.2個 (Table 3) である。TRUE の *P. longirostris* は73個であり両者の脊椎骨数には明らかに差が認められる。本種は吻が非常に長いので歯数も他に比べて多い。しかし歯数の多いものは個体変異も亦多い様である。同一の種類と思われる小川のものや、筆者等の標本にはその値に相当の巾が存在している。此等の外に胸骨、肋骨、肋軟骨等の測定を行なったが他との比較が出来ないので一応その測定値を記載するにとどめる。

前記した種々の点から考えて筆者等の此の標本は *Prodelphinus* 属に属するものであり、小川のハシナガイルカと筆者等の標本は同一の種であると思われる。そして現在まで挙げられている *Prodelphinus spp.* には約10種あるが、それ等の中で本種に最も近いと思われるものは TRUE の記載している *P. longirostris* である。しかし体色又は頭骨形状、脊椎骨数等から TRUE の *P. longirostris* とは全く異なる種であると云える。即ち未だ記載のない新しい種類のものであると考えられる。こゝでは一応 "HASHINAGA IRUKA" - *Prodelphinus sp.* として報告しておく。

摘 要

1. 1963年9月に五島周辺の海域で捕獲され、長崎魚市に水揚げされた小型歯鯨を調べた結果、かって小川が頭のみ一頭長崎より入手し命名したハシナガイルカと同じ種類であった。

2. この標本は *Prodelphinus* 属に属するのである。

3. この標本の体色は Fig. 2. Plate 1 に示す通りであるが、体には斑点は全く存在しない。体色の特徴は前頭部と肛門附近である。他の点に於て良く似ている *Prodelphinus longirostris* の体色と全く異なっていて一見して区別がつく。

4. 外部計測の値を Table 1 に示した。外形の特色は他の *Prodelphinus spp.* のものより吻が長い事が最も著しい。又マダライルカと比べると各々の鰭が大きい。

5. 頭骨計測の結果は Table 2 に示した。本種は他の *Prodelphinus spp.* と比べて吻が長い事が特徴である。鼻孔前方の triangular area に顕著に発達した結節の存在、側頭骨窩が異状に小さいと云う事等、頭骨の特徴が本種と似ている *P. longirostris* と比べると本種の方が吻は短く巾広く、そして頭骨自体も巾が広い。

6. 脊椎骨数は71.2個 (4頭平均) であった。

7. 歯数は 50~52/49~50 であった。

8. 胸骨、肩甲骨は興味ある形状をしている。胸骨、肋軟骨、肋骨及びそれ等の結合状態については Fig. 5 と Table 5 に記載した通りである。

9. 小川は本種ハシナガイルカを *Prodelphinus longirostris* としているが、しかし体色、頭骨計測結果、脊椎骨数等からして TRUE の記載する *P. longirostris* とは別

種のものであると思われる。いまだ記載のない新しい種類のものと考えられるが一応
 “HASHINAGA IRUKA”-*Prodelphinus sp.* としておく。

文 献

- 1) TRUE, F. W. : A review of the family Delphinidae. *Bull. U. S. Nat. Mus.*, No. 36, 61-77, 162-167 (1889).
- 2) Translated by MILLER, G. S. : Whales (Cetacea); from "Review of the interrelationships of the Whales (Cetacea)" : *Vidensk. Medd. Nat. Foren.*, Bd. 70, 222-302 (1918(19)).
- 3) 小川鼎三: 本邦の歯鯨に関する研究 (第2回), 植物及び動物, 4, 15-20 (1936).
- 4) 水江一弘・吉田主基: 九州西方海域産小型歯鯨類の研究-I. 長崎県五島有川で捕獲されたマダライルカについて, 本誌, 13, 1-8 (1962).

EXPLANATION OF PLATES

Plate I

- | | |
|-----------------------------------|---|
| Fig. 1. Dorsal view | Fig. 5. Pattern at the abdominal region |
| Fig. 2. Ventral view | Fig. 6. Pattern at the forehead part |
| Fig. 3. Dorsal view from the tail | Fig. 7. Pattern at the lateral view of the head |
| Fig. 4. Dorsal view from the head | |

Plate II

- | | |
|-----------------------------------|-----------------------------------|
| Fig. 8. Ventral view of skull | Fig. 13. Lateral view of mandible |
| Fig. 9. Dorsal view of skull | Fig. 14. Posterior view of skull |
| Fig. 10. Lateral view of skull | Fig. 15. Dorsal fin |
| Fig. 11. Dorsal view of mandible | Fig. 16. Flipper |
| Fig. 12. Ventral view of mandible | |

Plate III

- | | |
|------------------------------------|------------------------------------|
| Fig. 17. Outer view of scapula | Fig. 22. Dorsal view of flipper |
| Fig. 18. Inner view of scapula | Fig. 23. Dorsal view of tail fluke |
| Fig. 19. Lateral view of vertebrae | Fig. 24. Ventral view of body |
| Fig. 20. Dorsal view of vertebrae | Fig. 25. Cranial view of vertebrae |
| Fig. 21. Ventral view of flipper | |

Plate IV

- | |
|--|
| Fig. 26. Tuber on os incisivum at the triangular area in front of nares |
| Fig. 27. Inner view of sternum |
| Fig. 28. Posterior view of the first and second cervical vertebrae, 2nd. adhering to 1st |
| Fig. 29. Cranial view of the first and second cervical vertebrae. |
| Fig. 30. 3rd.~7th. cervical vertebrae in cranial view |

Plate I

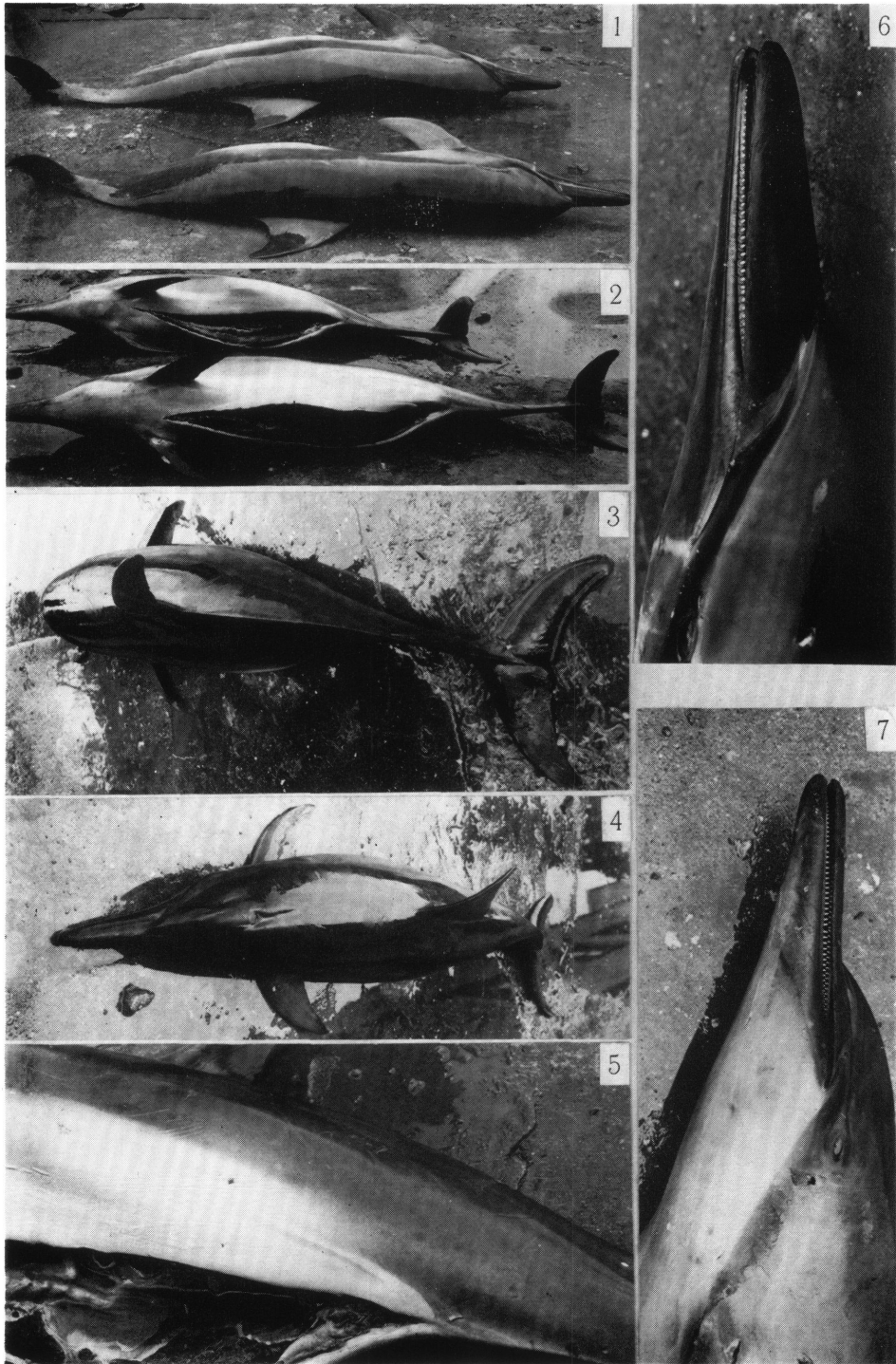


Plate II

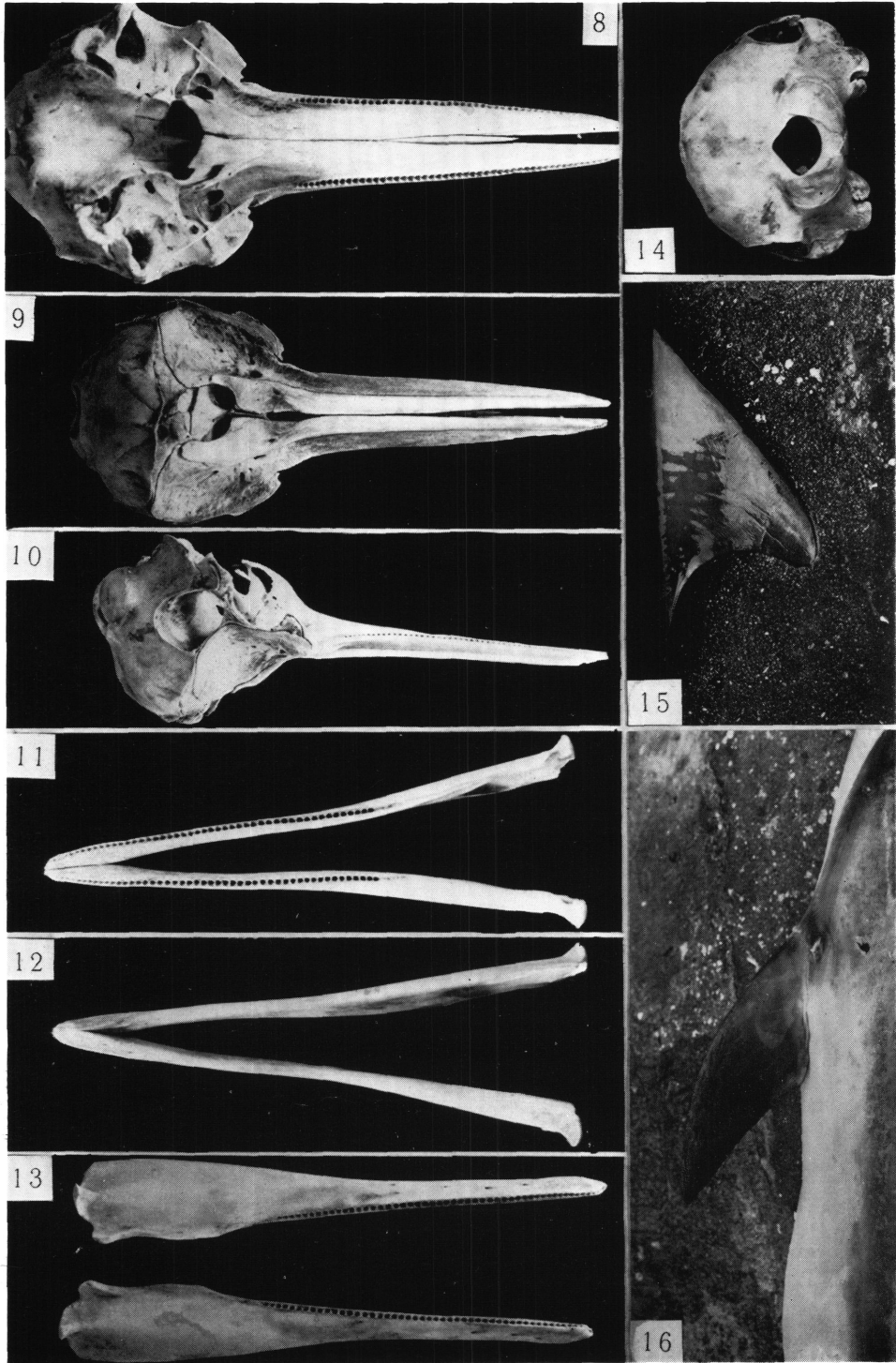


Plate III

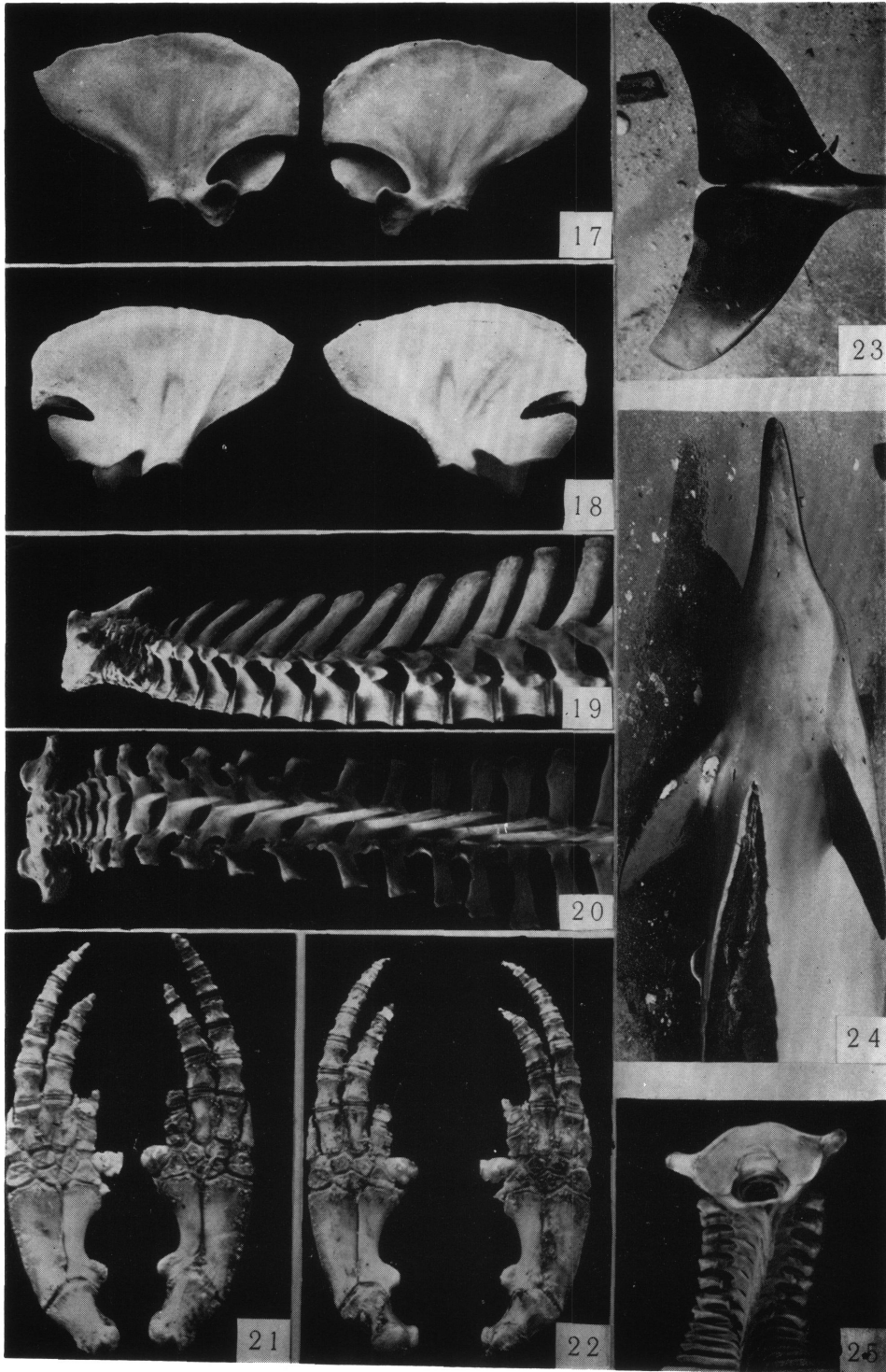


Plate IV

